

週日の説教

金 大烈 神父 2011年2月10日(木)

《自尊心とプライド -自尊心は、神様のために守るもの-》

今日の福音(マルコ7:24 - 30)は、シリア・フェニキアの女の人の物語です。皆様よくご存知の物語ですよ。この福音を読んで、私が考えたこととお話しします。

『自尊心』という言葉がありますね。今は『自尊心』という言葉のかわりに『プライド』という言葉をよく使います。誰が『自尊心』を『プライド』と訳したのか分かりませんが、本来はこの二つは正反対の意味の言葉です。それについて説明をさせていただきます。

まず、『プライド』という言葉は、比較する条件の中で使用する言葉です。「他の人より上手にできたので、誇らしい。」それを英語で、“I am proud of~” と表現します。つまり、『プライド』というのは、自分が他の誰かよりも優れていると思う心です。一方『自尊心』というのは、人がどうであるかは関係なく、自分で自分を尊く思い、大切にすることです。

では質問します。今日のこのシリア・フェニキア女性は、『自尊心』を守った人でしょうか、それとも捨てた人でしょうか？『自尊心』は守りましたね。しかし『プライド』は捨てたのです。こういう違いがあるのです。

今の時代、子ども達への教育で『プライド』を持つように強く指導しています。生存競争が激しい時代の子供達には、ある意味でふさわしい言葉かもしれません。しかし、『プライド』を守ろうとしても絶対に幸せな道を歩むことはできません。もっともっと自分が貧しくなってしまう。

『自尊心』というのは、食べ物がなくとも、人からは優れているように見えなくても、自分で自分を大切にする心です。このシリア・フェニキアの女性は、子どものために何が正しいかをよく分かっていたから、恥ずかしさを感じながらも自分を低くしたのです。これは100%自分を大切に、守ったということです。

私達もこういう問題で悩むことがあるのではないのでしょうか。その時皆様が守ろうとするのは『自尊心』でしょうか、それとも『プライド』でしょうか。

よく考えてみますと、私たちのいろいろな関わりが壊れてしまうのは、この『プライド』のためではないかと思います。「あの人が私を軽蔑するような態度を見せる。腹が立つからあの人は相手にしない。」こういう思いは『プライド』に縛られていて、相手を責めるだけでなく、自分さえ壊してしまう結果になります。それを意識しなければなりません。では、「自尊心を守る」とは、どういうことでしょうか。たくさんあるので、皆様も考えればすぐに分かると思います。

カトリック信者が何よりも守らなければならないのは『自尊心』です。神様からいただいたこの尊い体と魂を守らなければならないのです。商売のように売ってしまっってはいけないのです。それが旧約聖書、新約聖書で言っている「正義の精神」です。正義、正義と言いながら、比較をして相手を責

めようとするのは、絶対に正義と外れている考え方です。

皆様、これからもいろいろなことが起こると思います。その時、神様からいただいた賜物として『自尊心』をどのくらい守っているか振り返ってください。そうすれば、どのようにするのが善いのか、どのような態度が正しいのか、ふさわしいのか、すぐ分かると思います。

この世の中にはいろいろな難しさがあります。その中で、神様が約束されたものを得る方法は、『自尊心』を守ることです。それをもう一回考えてみましょう。

ありがとうございました。

※ミサ後 カトリック信者として、自尊心は神様のために守るものです。